

埼玉県産品フェア開催

県産品をPR

製品関連では10者出展

埼玉県建設資材県産品フェア2018(主催)同実行委員会・埼玉県)が8月3日・4日の両日、埼玉県民健康センター(さいたま市浦和区)で開催された。14回目となる今回は、過去最大となる52企業・団体が出展し、プレゼンスペースでは出展社による新製品・新技術発表会と製品・技術プレゼンテーションが行われた。



開会式では石井伸実行委員長(川金コアテック)が、

「出展各社が優れた技術でPRし、それぞれの会社と県土整備事業の発展につなげて欲しい」と挨拶。また西成秀幸県土整備部長は「埼玉県の公共工事では、できるものは全て県内企業にお願いしている。製品も基本的には県産品を中心に使っていく方針で、良い製品は全面的に採用したい。県の工事に標準的に使われる製品がどんどん開発されることを期待している」と述べた。

来賓では星野博の埼玉建設業協会会長が「生産性の向上に向けて期待しているのは、建設資材の改良等を通じた現場作業の効率化だ。

コンクリートに限らず現場で使用するあらゆる建設資材の施工性向上すれば、現場作業の効率化に大きく寄与すると考えている。協会としても県産品を使用して工事を高品質で完成させることが、優れた製品を製造する皆さんを応援することにつながると考えている」と祝辞を述べた。

同フェアには開催期間中約1200名が来場し、来場者の投票で選ばれるベストブリス賞は2年連続で東亜道路工業が受賞した。また過去3年間に初出展した企業・団体が対象の新人賞には大伸化学が選ばれた。

コンクリート製品関連では、カイ



防草タイプの函渠型側溝



リボーン側溝

エー共和コンクリート・共和コンクリート工業・共栄建材工業・埼玉県コンクリート製品協同組合・鹿土コンクリート工業・長島建物・日東・日之出水道機器・丸栄コンクリート工業・矢作コンクリート工業が出展した。

●コンクリート製品関連の

主な展示内容

【カイエー共和コンクリート】環境型コンクリート二次製品として、防草ブロック技術を用いた函渠型側溝やL型擁壁を出展した。

【防草ブロック技術】植物の生長メカニズム「屈光生」「屈地性」

を利用して、従来のコンクリート製品の目地形状を変えるだけで雑草が自ら成長を止めてしまう技術。群馬県では道路維持管理コストの削減を図るため、2020年から防草機能を有する製品の使用を原則化する方針を打ち出した。

会場では、自社開発の函渠型スリット側溝「フロンティア側溝」やボックス側溝「ロードランナー」、道路用L型擁壁「KKL」、フェンス基礎付L型擁壁「FEL」に防草機能を付加して、防草対策が不要な環境整備を提案した。

【共栄建材工業】自転車にやさしい側溝「サイクル」と蓋のガタツキ音を抑制する「リボーン側溝」などを出展した。

【リボーン側溝】側溝蓋と蓋受け部をR形状にして、蓋のガタツキを抑える技術。道路幅が狭い場所など、車両が側溝上を通過して蓋のガタツキ音が発生しやすい住宅街などに効果がある。会場ではロングUに埼玉県型タイプの蓋をセットしたリボーン側溝の模型を展示した。

【サイクル】国土交通省の「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に準拠した製品。エプロン幅を120mmに抑えており、省スペース化により自転車レーンの確保や、車道の有効幅員拡充を図ることができる。側溝外壁が垂直で転圧が容易な上、舗装部材が製品にオーバーラップして沈下を防止する。連続したスリット溝により排水効果も向上する。

警察庁は自転車の原則車道左側走行を打ち出したが、自転車が行き止まりの多いL型側溝は排水勾配が6%ときつ、道路の横断